計画策定にあたり

農産物などの自由貿易協定 TPP11、日欧 EPA が発効され、さらには日米二国間による貿易協定交渉も合意がなされ、関税に関する国際的な枠組みが次々と構築されようとしています。こうした状況を踏まえ、日本の酪農、畜産も早急に国際的な競争力の獲得を迫られており、そのためには、北海道の土地資源と、育成技術の有効活用が必須となります。即ち、公共牧場は、地域の酪農、畜産を支えるだけにとどまらず、日本の乳肉を持続的に生産する原動力にならなければなりません。また、地域においては、押し寄せる分業化の波への対応が逼迫（ひっぱく）の度合いをましていることから、公共牧場のインフラ整備やスキルアップが、これまでにも増して重要となっています。また、昨年道内で発生した巨大地震によるブラックアウトでの危機管理の甘さを痛感させられる状況から、さまざまな課題を克服し、各利用者と消費者の期待に応えるため、諸情勢の変化を先取りして対応することを求められています。

標茶町育成牧場中長期計画は、これら情勢を踏まえたうえ、更には令和 3 年度からの 10 年間の標茶町第 5 期総合計画にも反映するため、町営公共牧場としての使命を果たすうえでの基本設計と位置づけ、方針達成のために本計画を策定します。

なお、今後の農業情勢や公共牧場に求められる役割も変化することが予想されることから、3 年ごとの定期的な評価及び計画の見直しも実施していきます。

今後も開かれた公共の場として地域の方々に有効に利用され、地域酪農振興に寄与してまいります。

目　　次

第１　標茶町育成牧場の概要
１．沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
２．家畜頭数の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２～４
（１）受託頭数
（２）所有頭数
３．家畜管理の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５～６
（１）受託牛の状況
（２）めん羊事業の状況
４．施設の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
（１）管理用地の現況
（２）建物の現況
（３）機械の現況
５．運営体制の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
６．収支の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９

第２　今後のすがた
１．概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０
２．受託頭数の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０
３．家畜管理の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
（１）受託牛の飼養管理
（２）めん羊管理方針
４．施設の整備方針
（１）草地の整備方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
（２）建物・施設の整備方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
（３）車両・機械の整備方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２～１３
５．収支見込み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４

資料編・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５
１．受託頭数の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６
２．めん羊改良方向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７～１９
３．施設台帳・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０～２１
４．機械・器具台帳・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２～２４

第１　標茶町育成牧場の概要

１．沿革

当牧場の位置する地域は戦前軍馬補充部用地として利用していたが、戦後緊急開拓行政の施行により地区の一部は旧制度の開墾建設事業が行われ、共同採草牧草地として標茶、弥栄開拓農協が団体受け渡しを受けた。その後標茶町、標茶農協もその一部を所有したが、この内1,477ha を一括町が買収を進め、昭和41 年国営大規模草地改良事業が開始された。この事業は５ヵ年の歳月を費やし草地造成 987.7ha、道路 14,850m、牧場用施設 20 棟、3 基、管理用機械一式、その他を含め総事業費６億７千万円余りが投資され完工した。

これにより当町の酪農家から後継牛を受託し、集団育成することによって地域の酪農経営規模拡大に寄与してきた。しかし、酪農情勢は年々厳しさを増し経営の質的転換を求められるような状況から、当牧場も各種事業を導入して基盤の充実、利用施設の再整備を実施。さらに、昭和61 年度には、標茶地区国営草地開発事業により上オソベツ団地 646ha を編入、2 団地構成とした。昭和 63 年から平成 2 年度にかけて牧場の多面利用を図るための公共育成牧場整備事業を導入、平成3年度から同6年度には公共牧場機能強化事業により牧場本来の機能強化と、緑資源を保養の場として提供し、地域活性化を担う多面性を持った公共牧場として整備を進め、平成８年度から同 15 年度には道営公共牧場整備事業を導入し、新基地を造成し畜舎、衛生舎、バンガーサイロ、堆肥舎等の施設の新設と永年化した草地の改良、平成 19 年度から同 24 年度には、道営公共牧場整備事業公共牧場中核型を導入し、畜舎、堆肥舎、作業用道路や草地の改良、平成 25 年度から同 29 年度には、道営公共牧場整備事業区画整理を導入し、草地の改良を行い、冬期間の舎飼施設を充実するとともに、粗飼料基盤の強化を図っている。平成 18 年度には哺育センターも稼働し、哺育、育成、人工授精までの一貫養育体制がとられ、利用者ニーズに応える体制がとられている。

現在の総管理面積は 2,128ha である。

２．家畜頭数の推移

（１）受託頭数

年度	合計	夏季放牧牛					冬季舎飼牛					哺育牛					馬
	延べ頭数	日数	延べ頭数			平均頭数	日数	延べ頭数			平均頭数	日数	延べ頭数			平均頭数	延べ頭数
			町内	町外	小計			町内	町外	小計			町内	町外	小計		
S43	41,462	155	41,462	0	41,462	267											
S44	149,019	165	131,830	0	131,830	799	200	17,189	0	17,189	86						
S45	254,893	159	203,733	0	203,733	1,281	206	51,160	0	51,160	248						
S46	330,142	150	259,403	0	259,403	1,729	216	70,739	0	70,739	327						
S47	360,104	156	293,861	0	293,861	1,884	209	66,243	0	66,243	317						
S48	494,106	168	390,080	0	390,080	2,322	197	87,794	16,232	104,026	528						
S49	462,327	163	360,899	28,604	389,503	2,390	202	65,307	7,517	72,824	361						
S50	446,099	162	364,888	3,332	368,220	2,273	204	76,579	1,300	77,879	382						
S51	482,291	162	434,355	5,907	440,262	2,718	203	34,630	7,399	42,029	207						
S52	501,410	162	460,415	12,876	473,291	2,922	203	17,957	10,162	28,119	139						
S53	515,775	162	479,840	13,439	493,279	3,045	203	11,422	11,074	22,496	111						
S54	549,168	159	491,358	20,971	512,329	3,222	207	9,460	27,379	36,839	178						
S55	542,923	159	469,999	30,980	500,979	3,151	206	10,569	31,375	41,944	204						
S56	536,584	164	456,090	34,262	490,352	2,990	201	11,049	35,183	46,232	230						
S57	554,433	161	485,122	31,083	516,205	3,206	204	9,223	29,005	38,228	187						
S58	544,266	162	480,679	22,778	503,457	3,108	204	12,125	28,684	40,809	200						
S59	555,011	160	479,507	27,424	506,931	3,168	205	16,028	32,052	48,080	235						
S60	566,871	164	471,045	29,392	500,437	3,051	201	19,635	46,799	66,434	331						
S61	616,999	164	470,790	57,653	528,443	3,222	201	18,840	69,716	88,556	441						
S62	601,918	165	443,561	64,091	507,652	3,077	201	15,192	79,074	94,266	469						
S63	643,195	164	425,494	93,573	519,067	3,165	201	23,543	100,585	124,128	618						
H01	685,795	163	435,600	103,563	539,163	3,308	202	30,421	116,211	146,632	726						
H02	746,767	164	458,272	121,726	579,998	3,537	201	33,938	132,831	166,769	830						
H03	729,763	164	418,806	126,624	545,430	3,326	202	36,215	148,118	184,333	913						
H04	695,121	165	393,572	117,530	511,102	3,098	200	53,677	130,342	184,019	920						

年度	合計	夏季放牧牛					冬季舎飼牛					哺育牛					馬
	延べ頭数	日数	延べ頭数			平均頭数	日数	延べ頭数			平均頭数	日数	延べ頭数			平均頭数	延べ頭数
			町内	町外	小計			町内	町外	小計			町内	町外	小計		
H05	712,102	161	412,071	113,185	525,256	3,262	204	54,531	131,050	185,581	910						1,265
H06	643,129	161	351,520	106,612	458,132	2,846	204	48,102	134,955	183,057	897						1,940
H07	642,084	162	338,113	107,277	445,390	2,749	204	64,338	129,499	193,837	950						2,857
H08	632,661	157	290,091	119,598	409,689	2,609	208	63,792	158,100	221,892	1,067						1,080
H09	587,261	159	266,970	123,940	390,910	2,459	206	58,057	138,294	196,351	953						0
H10	521,478	160	260,008	92,278	352,286	2,202	205	59,201	109,991	169,192	825						0
H11	510,939	161	248,695	91,237	339,932	2,111	205	67,273	103,359	170,632	832						375
H12	503,630	159	239,382	76,970	316,352	1,990	206	91,331	95,499	186,830	907						448
H13	553,865	161	244,915	81,513	326,428	2,028	204	125,166	101,815	226,981	1,113						456
H14	679,122	161	281,169	97,787	378,956	2,354	204	183,641	116,270	299,911	1,470						255
H15	755,804	161	287,378	107,562	394,940	2,453	205	219,108	141,348	360,456	1,758						408
H16	766,887	161	300,289	111,584	411,873	2,558	204	215,172	139,842	355,014	1,740						
H17	694,408	158	258,560	113,047	371,607	2,352	207	182,921	139,880	322,801	1,559						
H18	646,453	159	202,009	115,725	317,734	1,998	206	160,730	140,218	300,948	1,461	304	27,771	0	27,771	91	
H19	669,621	155	217,987	111,177	329,164	2,124	211	167,008	130,497	297,505	1,410	366	42,795	157	42,952	117	
H20	658,461	166	204,451	112,816	317,267	1,911	199	166,159	131,062	297,221	1,494	365	40,955	3,018	43,973	120	
H21	769,934	163	224,017	131,034	355,051	2,178	202	186,611	157,997	344,608	1,706	365	66,739	3,536	70,275	193	
H22	826,937	161	241,040	130,035	371,075	2,305	204	215,528	163,949	379,477	1,860	365	73,866	2,519	76,385	209	
H23	893,342	160	258,992	136,211	395,203	2,470	206	237,409	168,104	405,513	1,969	366	92,580	46	92,626	253	
H24	890,124	160	245,221	152,174	397,395	2,484	205	224,857	163,936	388,793	1,897	365	103,403	533	103,936	285	
H25	894,496	163	228,925	145,462	374,387	2,297	202	224,634	178,322	402,956	1,995	365	115,850	1,303	117,153	321	
H26	944,200	164	242,088	158,222	400,310	2,441	201	246,942	180,130	427,072	2,125	365	115,215	1,603	116,818	320	
H27	1,000,429	162	248,578	142,983	391,561	2,417	204	276,182	194,289	470,471	2,306	366	135,483	2,914	138,397	378	
H28	1,076,859	164	278,222	148,564	426,786	2,602	201	303,605	177,393	480,998	2,393	365	163,631	5,444	169,075	463	
H29	1,150,360	165	308,155	144,397	452,552	2,743	200	342,275	175,072	517,347	2,587	365	167,321	13,140	180,461	494	
H30	1,136,662	164	325,671	124,816	450,487	2,747	201	354,275	138,385	492,660	2,451	365	193,044	471	193,515	530	

（２）所有頭数

集計日	めん羊						備考
	計	サフォーク		その他			
		オス	メス	オス	メス	その他の品種	
S49 年末	68					コリデール	十勝種畜牧場から 68 頭導入
S50 年末	90					〃	滝川畜産試験場から 22 頭導入
S51 年末	115					〃	
S52 年末	135					〃	
S53 年末	122					〃	
S54 年末	129					〃	十勝種畜牧場から 5 頭導入
S55 年末	149	3	66	4	76	〃	十勝種畜牧場から 1 頭導入
S56 年末	185	4	79		102	〃	
S57 年末	209	14	97		98	〃	
S58 年末	303	42	128	21	112	〃	
S59 年末	374	53	150	25	146	〃	
S60 年末	484	115	369				
S61 年末	512	120	392				スクレイピー発生初年度
S62 年末	384	34	350				
S63 年末	338	40	298				
H01 年末	386	38	327	1	20	サウスダウン	ニュージーランドから 41 頭輸入
H02 年末	270	7	243	1	19	〃	
H03 年度末	544	125	364	17	38	〃	
H04 年度末	594	136	379	29	50	〃	
H05 年度末	762	191	488	23	60	〃	
H06 年度末	952	231	616	33	72	〃	
H07 年度末	1090	275	707	39	69	〃	
H08 年度末	653	109	448	26	70	〃	老廃用を 130 頭売却（肉用）
H09 年度末	576	106	317	52	101	〃	
H10 年度末	511	95	198	106	112	〃	
H11 年度末	422	44	184	95	99	〃	
H12 年度末	466	72	211	54	129	〃	
H13 年度末	517	69	262	56	130	〃	
H14 年度末	144	19	67	21	37	〃	
H15 年度末	246	38	67	62	79	〃	
H16 年度末	153	18	54	18	63	〃	
H17 年度末	160	52	64	6	38	〃	
H18 年度末	143	49	77	6	11	〃	
H19 年度末	144	34	89	6	15	〃	
H20 年度末	146	25	82	17	22	〃	
H21 年度末	133	28	65	14	26	〃	
H22 年度末	123	26	65	11	21	〃	
H23 年度末	122	35	58	8	21	〃	
H24 年度末	110	20	70	3	17	〃	羽幌町から 13 頭導入
H25 年度末	165	37	110	6	12	〃	
H26 年度末	161	48	89	8	16	〃	鹿追町から 1 頭導入
H27 年度末	137	45	83	1	8	〃	改良センター、新得畜試から 7 頭導入
H28 年度末	146	42	91	5	8	〃	
H29 年度末	155	47	95	3	10	〃	新得畜試から 2 頭導入
H30 年度末	174	25	108	19	22	〃・フライスランド	長野県から 3 頭導入

３．家畜管理の概要

（１）受託牛の状況

夏季放牧を主に始まった当牧場は、昭和６０年代から農家規模の拡大に伴い冬季舎飼も増え始めた。

平成１８年からの哺育事業開始により、哺育から育成までの飼養を一括して通年で委託する農家が増え、現在では預託頭数のうち約半数が哺育及び哺育上がり、２割が町外牛、３割が夏季及び冬季入牧となっている。

繁殖については、最終授精月齢が早まり、搾乳牛としての早期供用が実現できている。平均授精回数は初回授精月齢の早期化や性判別精液の使用などにより増えているが、近年は落ち着いてきている。

疾病については、近年、死廃が多発した年があったが、過密が軽減されるにつれ減っている。

年度	初回 授精頭数	平均初回 授精月齢	平均最終 授精月齢	平均 授精回数
H12	1,547	17.2	17.9	1.64
H13	1,835	16.4	17.0	1.63
H14	2,031	16.1	16.7	1.62
H15	2,367	16.3	17.0	1.60
H16	2,372	16.1	16.8	1.62
H17	2,247	15.6	16.4	1.65
H18	1,841	15.5	16.1	1.60
H19	1,637	15.5	16.3	1.66
H20	1,453	15.5	16.1	1.73
H21	1,666	15.4	16.2	1.74
H22	1,707	15.6	16.4	1.85
H23	1,749	15.3	16.2	1.84
H24	1,790	15.1	16.1	1.98
H25	1,777	15.1	16.2	2.06
H26	1,776	14.9	15.9	2.06
H27	1,765	14.8	15.7	1.90
H28	1,822	14.7	15.5	1.87
H29	1,704	14.8	15.7	1.84
H30	1,892	14.9	15.7	1.90

（初回は入牧前授精、最終は未妊娠での退牧があるため、その誤差を含む）

（２）めん羊事業の状況

当牧場のめん羊は地場産業の育成を目的に昭和４９年からサフォーク種、コリデール種を中心に導入され、導入と自家繁殖により年末飼養頭数では昭和６１年末で５１２頭と１度目のピークを迎えた。

昭和６２年からスクレイピー対策として既存群は漸減させ、抗スクレイピー抗体を持つ羊を導入して新しい群を作る方針となり、サフォーク種のほかサウスダウン種やポールドーセット種なども導入され、平成７年末で１０９０頭と２度目のピークを迎えた。

しかしながら収支は常に赤字で、平成１４年にはめん羊飼養の目的を観光・福祉に改めた。

飼養頭数は平成２３年末で１１０頭まで減少し、そこから繁殖メス頭数はほぼ横ばいの状況である。

課題としては、めん羊専用の畜舎が繁殖メスで９０頭ほどしかないこと、小規模授産施設コスモスに飼育委託できなくなり人員の確保に苦慮していること、サフォークに単子が多く分娩事故の多発や飼養頭数の減少が起きていること、恒常的に赤字であること、などが挙げられる。

４．施設の概要

（１）管理用地の現況

管理面積計　２，１２８ｈａ
放牧地1，１５１ｈａ、採草地３８２ｈａ、兼用草地７３ｈａ、建物敷５３ｈａ、
ふれあい開放地５ｈａ、その他（山林・道路・放牧パドック等）４６４ｈａ

（２）建物の現況

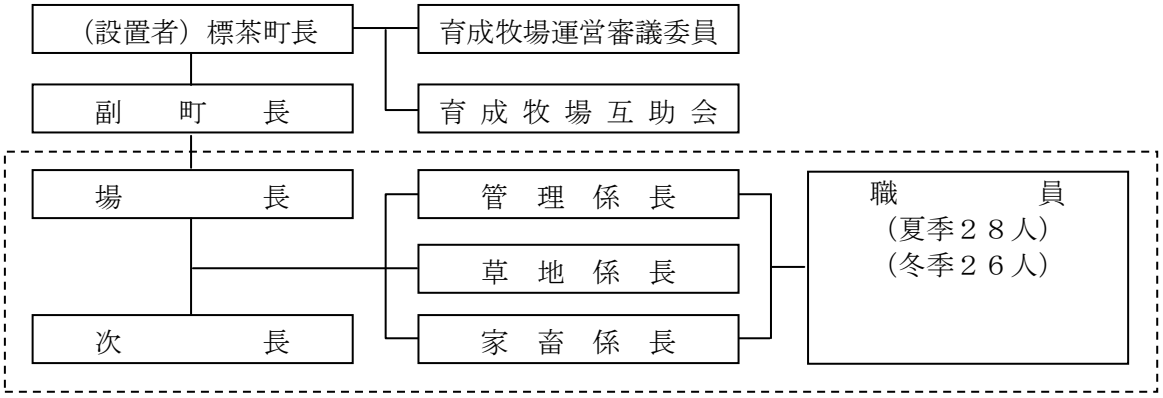
事務所１棟、畜舎２０棟、ｵｰﾄﾊﾞｲ庫1棟、羊舎2棟、看視舎１４棟、避難舎１１棟、衛生舎4棟、牛衡舎1棟、機械庫2棟、燃料庫1棟、堆肥舎4棟、　ﾊﾞﾝｶﾞｰｻｲﾛ4棟、コンポスト施設3棟、尿だめ3槽、ヘリポート4

（３）機械の現況

・一般車両　乗用１０、軽四７、原付１８、家畜車２、ダンプ５、ほか貨物車２
・特殊車両　トラクター１４、ショベルローダ８、ほか特殊車両２
・農業機械　牧草収穫調製・ふん尿処理・草地管理用等
・作業機器　哺乳ロボット・ミルクメーカー・無線機等

５．運営体制の概要

＜機構・配置＞



６．収支の状況（直近５か年）

平成２６年度	収入	事業収入 事業外収入	446,939,960 20,843,853	支出	事業経費 事業外経費	440,738,844 23,170,356	収支
		計	467,783,813		計	463,909,200	3,874,613
平成２７年度	収入	事業収入 事業外収入	476,220,813 16,003,419	支出	事業経費 事業外経費	476,133,984 13,738,229	収支
		計	492,224,232		計	489,872,213	2,352,019
平成２８年度	収入	事業収入 事業外収入	515,951,419 21,547,035	支出	事業経費 事業外経費	495,998,222 24,272,235	収支
		計	537,498,454		計	520,270,457	17,227,997
平成２９年度	収入	事業収入 事業外収入	554,078,904 16,081、270	支出	事業経費 事業外経費	550,744,154 19,795,128	収支
		計	570,160,174		計	570,539,282	△379,108
平成３０年度	収入	事業収入 事業外収入	543,363,166 13,302,874	支出	事業経費 事業外経費	545,618,680 8,094,699	収支
		計	556,666,350		計	553,713,379	2,952,661

※事業収入＝牧場使用料、手数料、めん羊事業収入、駆虫処置料など
事業外収入＝投資的経費の１／２を町一般財源、めん羊事業経費の全額町費

事業支出＝人件費、物件費（消耗品、燃料費、光熱水費、飼料費、修繕費）、委託料、借上料など
事業外支出＝投資的経費（施設修繕、機械・器具購入、基盤整備費）

第２　今後のすがた

１．概況

町内乳牛頭数、肉牛頭数は横ばい傾向であるが、近年農業者の分業化が進行し、哺育、育成部門も外部委託志向が増えている。一方で地域共同による哺育・育成センターの稼働や個人による育成預託農場も増えてきている。

道外府県については、農家戸数や乳牛頭数も減少しているが、北海道への預託希望は依然強いことから大きな変化はない状況である。

基地施設、機械については、老朽化しているものは用途廃止、用途変更、新たに新設、新規導入も図り、直営作業、委託作業との効率化も進め、上オソベツ団地については、粗飼料供給基地としての草地整備を計画的に進める。

当該牧場の果たすべき任務として項目別に以下後述のとおり計画する。

２．受託頭数の目標

当牧場の畜舎を含めた施設の現状は開設当初から使用している畜舎をはじめ、施設・機械や車両もすでに更新や廃止をせざるを得ないものも複数所有し、維持修繕では限界のあるものは、新規取得や施設整備が急務となっている状況である。

また、家畜管理業務を担う従業員の確保の課題や当牧場で管理している粗飼料基盤の状況、家畜ふん尿処理などの現状を踏まえ、今後の頭数管理としては、畜舎の用途廃止、新設による効率化、群構成も踏まえたうえで、次の頭数を適正目標とする。

夏期放牧期は放牧地の基盤から哺育と合わせて 2,800 頭程度を目標とする。
冬期舎飼期の頭数は、昭和 45 年築畜舎、昭和 47 年築畜舎、D 型畜舎 4 棟については用途廃止または用途変更により 780 頭程度の減
新たに畜舎 3 棟を新設　440 頭程度の増
よって哺育も合わせて 2,500 頭程度を目標とする。

年度別預託頭数目標

		令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
頭　数 日平均 （頭）	夏季放牧	2600	2500	2450	2400	2350	2300	2300	2300	2300	2300	2300
	冬季舎飼	2400	2350	2300	2300	2300	2200	2150	2100	2050	2050	2000
	哺　　育	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500
年間延頭数（千頭）		1092	1065	1047	1039	1030	1002	992	982	972	972	962

※標茶町酪肉近計画表

項目	標茶町酪肉近計画		
	H25 年度	令和 7 年度	伸び率
総頭数	39,663	38,250	0.9643
成牛頭数	22,122	21.240	0.9601
育成頭数	17,541	17,010	0.9697

３．家畜管理の目標

（１）受託牛の飼養管理

全体が過密な状況が続いており、妊娠が確認され次第退牧する措置を継続する。

哺育からの一貫預託が増える中で、より早く成長させ、人工授精し、妊娠して退牧することで、少しでも過密の軽減に資するとともに、農家経済にも貢献する。

そのため、飼料の内容や給餌方法、その他の管理方法について不断の点検と見直しを行い、より強く、より長く使える牛を育てる。さらに飼養方法を規定化し、ミスを防止する。またできるだけ標準化することで効率化を図る。

繁殖については、今年度から牧場の標準人工開始月齢を１３か月齢、繁殖治療開始月齢を１４か月齢に早めている。また、プログラム授精や早期追い移植を継続して実施する。

疾病については、検査による分析と予防を重点に取り組む。疾病等により搾乳牛としての価値を喪失した牛は、早期判断を畜主に促す。

（２）めん羊管理方針

飼養目的の観光・農福連携は継続するが、付加価値向上のための肉資源強化を方針とする。そのためには、専門的人員の配置と肉質向上のための飼料設計、飼養管理体制の構築を図る。

経費増が考えられるが、売却価格の見直しと、政策的価値づけのもと、頭数維持と出荷体制維持を行う。

具体的には、施設については、当面の飼養施設を確保した上で、将来的にはＫ基地での牛飼養を減らしめん羊で利用する方向性を考える。

人員については、当牧場においてめん羊飼育を担当できる若手後継者を育成する。

生産については、一定程度の生産性を維持するため受胎率９５％×産仔率１５０％×離乳率８５％で繁殖♀１頭当たり１．２頭の離乳を目標とする。

頭数規模は、施設や人員の制約、経費の削減などを考え、種付けする繁殖♀で１００頭規模を維持し、限られた繁殖♀群でなるべく多くの食肉を出荷できるよう改良を行う。そのため、めん羊改良方向を作成する。

出荷は、憩の家かや沼の動向にもよるが、原則的に町内優先の出荷とする。売却価格はと畜料や輸送費を加えた価格に見直しする。

４．施設の整備方針

（１）草地の整備方針

「令和３年度～令和７年度」
道営事業による草地整備（起伏修正・排根線除去）２６５ha　198,400 千円
測量試験費　35,000 千円
小計 233,400 千円（うち 25%負担 58,350 千円）
「令和２年度～令和１１年度」
直営事業による草地整備　３００ha

（２）建物・施設の整備方針

令和２年度　　畜舎１棟　１００頭(町単独)　18,000 千円
　　小計 18,000 千円
令和３年度　　バンガーサイロ５基（町単独）　80,000 千円
　　小計 80,000 千円
令和３～７年度（道営事業）
　　畜舎１棟　２４０頭　511,000 千円
　　衛生舎１棟　18,000 千円
　　堆肥舎１棟　114,000 千円
　　敷地造成　25,000 千円
　　測量試験費・実施設計費・工事監理費　75,000 千円
　　小計 743,000 千円（うち 25%負担 185,750 千円）
令和４年度　　バンガーサイロ５基（町単独）　70,000 千円
　　小計 70,000 千円
令和５年度　　スタックサイロ敷地路盤舗装（町単独）　75,000 千円
　　小計 75,000 千円
令和６年度　　パドック改良（町単独）10,000 千円
　　小計 10,000 千円
令和８年度　　畜舎１棟　１００頭（町単独）　20,000 千円
用途変更により畜舎２棟を羊舎に　Ｄ型畜舎２棟を飼料庫に

（３）車両・機械の整備方針

令和２年度　　ダンプトラック４ｔ車１台(15,000 千円)
　　中古家畜車１台(6,000 千円)
　　テッター1 台(5,000 千円)
　　レーキ１台(6,500 千円)
　　ミキサーフィーダー１台(13,000 千円)
　　自動給餌車（2,300 千円）
　　哺育カーフフィーダー（4,200 千円）
　　小計　52,000 千円
令和３年度　　哺育引き取りワゴン１台(2,500 千円)
　　ロールベーラー１台(8,000 千円)
　　テッター１台(5,000 千円)
　　レーキ１台(6,500 千円)

	小計　22,000 千円
令和４年度	バイク２台（700 千円）
	ダンプトラック４ｔ車１台（15,000 千円）
	小計　15,700 千円
令和５年度	軽トラック１台（1,300 千円）
	トラクター１台（20,000 千円）
	ブロードキャスター1 台（4,000 千円）
	簡易更新機１台（2,500 千円）
	小計　27,800 千円
令和６年度	中古大型ダンプ１台（10,000 千円）
	中古家畜車１台（8,000 千円）
	ラッピングマシーン１台（2,000 千円）
	小計　20,000 千円
令和７年度	連絡車１台（2,500 千円）
	軽トラック１台（1,300 千円）
	バイク２台（700 千円）
	スラリータンカー１台（10,000 千円）
	小計　14,500 千円
令和８年度	ロールベーラー１台（10,000 千円）
	小計 10,000 千円
令和９年度	トラクター１台（20,000 千円）
	マニュアスプレッター１台（8,000 千円）
	小計　28,000 千円
令和１０年度	軽トラック１台（1,300 千円）
	バイク２台（700 千円）
	小計　2,000 千円
令和１１年度	テッター１台(6,000 千円)
	レーキ１台(7,000 千円)
	ブロードキャスター１台（5,000 千円）
	小計　18,000 千円

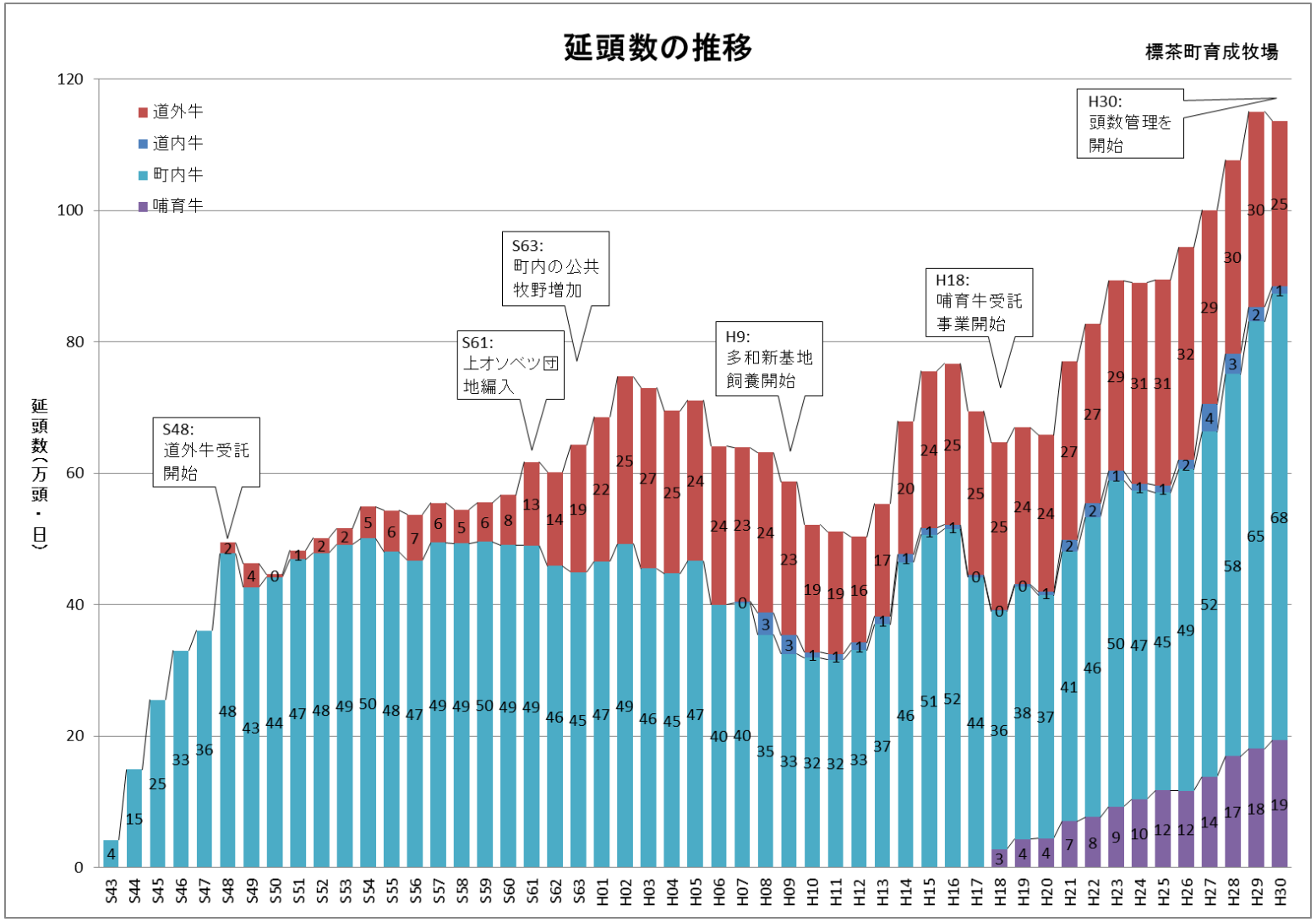
５．収支見込み

令和２年度	収入	事業収入 事業外収入	531,780,000 45,500,000	支出	事業経費 事業外経費	538,000,000 73,000,000	収支
		計	577,280,000		計	611,000,000	△33,720,000
令和３年度	収入	事業収入 事業外収入	578,468,000 61,500,000	支出	事業経費 事業外経費	534,000,000 114,280,000	収支
		計	639,968,000		計	648,280,000	△8,312,000
令和４年度	収入	事業収入 事業外収入	575,340,000 53,350,000	支出	事業経費 事業外経費	528,000,000 119,534,000	収支
		計	628,690,000		計	647,534,000	△18,844,000
令和５年度	収入	事業収入 事業外収入	572,312,000 69,868,000	支出	事業経費 事業外経費	526,000,000 121,735,000	収支
		計	642,180,000		計	647,735,000	△5,555,000
令和６年度	収入	事業収入 事業外収入	557,057,000 97,978,000	支出	事業経費 事業外経費	521,000,000 177,956,000	収支
		計	655,035,000		計	698,956,000	△43,921,000
令和７年度	収入	事業収入 事業外収入	550,994,000 42,298,000	支出	事業経費 事業外経費	516,000,000 66,595,000	収支
		計	593,292,000		計	582,595,000	10,697,000
令和８年度	収入	事業収入 事業外収入	544,630,000 25,500,000	支出	事業経費 事業外経費	511,000,000 33,000,000	収支
		計	570,130,000		計	544,000,000	26,130,000
令和９年度	収入	事業収入 事業外収入	538,567,000 26,000,000	支出	事業経費 事業外経費	509,000,000 34,000,000	収支
		計	564,567,000		計	543,000,000	21,567,000
令和１０年度	収入	事業収入 事業外収入	538,567,000 13,000,000	支出	事業経費 事業外経費	509,000,000 8,000,000	収支
		計	551,567,000		計	517,000,000	34,567,000
令和１１年度	収入	事業収入 事業外収入	532,503,000 21,000,000	支出	事業経費 事業外経費	506,000,000 24,000,000	収支
		計	553,503,000		計	530,000,000	23,503,000

※事業収入は牧場使用料、手数料、めん羊事業収入など
事業外収入は投資的経費の１/２町費負担、めん羊事業の全額町費負担
町費一般財源として　令和 2～11 年度計　455,993 千円
標茶町一般会計による収支見込　令和 2～11 年度計　6,112 千円

資　料　編

１．受託頭数の推移


延頭数の推移
標茶町育成牧場
道外牛
道内牛
町内牛
哺育牛
延頭数（万頭・日）
S48:
道外牛受託
開始
S61:
上オソベツ団
地編入
S63:
町内の公共
牧野増加
H9:
多和新基地
飼養開始
H18:
哺育牛受託
事業開始
H30:
頭数管理を
開始

２．めん羊改良方向

ア）選抜

・　仔羊は双子または三子で離乳時体重が大きいものを繁殖群に選抜する。
・　繁殖♂は１歳～７歳（明け２歳～８歳）で供用する。
・　繁殖♀は7歳（6産）を基準に更新する。２年続けて不妊のもの、育児をしないものは淘汰対象とする。

イ）交配

①　受胎率の向上

本来は繁殖♂１頭で♀５０頭までの自然交配を行えるが、受胎率向上のため群当たりの繁殖♀頭数を制限し同系統２頭の繁殖♂を同居させる。

②　産仔率の向上

肥育頭数を確保するためフライスランドとの交雑種を利用する。初産において多い分娩や育児の事故を防ぐためにも、サフォークの初産はフライスランドを付け交雑種を創出する。

そのＦ１には当面の間、８歳以上や他の群で使わなかった余剰のサフォーク繁殖♂を付け、その仔であるＦ２は全て肥育して出荷する。将来的には肉質の良いサウスダウンや繁殖期間が長く出荷時期を延ばせるポールドーセットなどの利用を検討する。

③　離乳率の向上

近親交配による群の劣化を避けるとともに雑種強勢を用い、事故淘汰を減らす。

②のとおり初産の仔をサフォークの繁殖♀に回さなければ、仔が繁殖♀群に入ってくるのは４年目となるため、３年までは同じ繁殖♂を使える。父以外の繁殖♂を３系統用意できれば７年間は近親にならないため、３系統＋父で４系統の群が編成できれば種♂は自家育成のみで足りる。

ウ）　群構成

①　繁殖♂は系統別にサフォークを種Ａ～Ｄ、フライスランドを種Ｆとして５群に区分する。

産仔から選抜して群頭数３頭を維持する。

②　繁殖♀は、０歳群、１歳群、Ａ～Ｄ群（父の系統で区分）、Ｆ群（サフォークとフライスランドのＦ１）に区分する。

Ａ～Ｄ群を１８頭程度で維持する。供用６産として年３頭の更新。死廃等による頭数減は更新淘汰の減や繁殖仕向けの増により調整する。

Ｆ群は１８頭程度を計画するが、畜舎が確保でき頭数を増やせれば出荷頭数の増につながる。

エ）導入

・　上記が確立すれば基本的な繁殖群は自家育成で賄えるが、繁殖♂を作るための母♀を導入すると全く違う遺伝形質を入れることができる。
・　出荷の質や量の向上のためにサウスダウンやポールドーセットの導入は想定できる。

（２）現存するめん羊群の確立

人員１人による作業性を考え、繁殖メスは１５～２０頭を１群として管理し、群の数を増やしていくことで増頭する。

①　現方針による１００頭規模

管理方針の改良方向のとおり、サフォークの基礎群を維持するためサフォーク純血のＡ～Ｄ群を維持し、そこから出てくるフライスランドとのＦ１をＦ群とし、その仔であるＦ２と、Ａ～Ｄ群のオス（繁殖仕向け以外）を出荷する。

これが完成するとＡ～Ｄ・Ｆ群の５群×１８頭、１歳群１２頭合わせて繁殖メスで１００数頭の規模となる。

ただしフライスランドの混血で成績が上がらない場合は新たな改良方向を模索す

る。

② フライスランド活用による１５０頭規模

Ｆ１メスを全て繁殖に仕向ければ計算上５４頭まで増やせるので、これを３群に分け、１８頭×７群、１歳群２４頭合わせて１５０頭の規模までは拡大できる。

③ 増群によるそれ以上の規模

Ａ～Ｄ群の群あたり頭数を増やすか、群の数を増やす（例えばＡ系統をＡ１群とＡ２群の２群作る）ことで可能となる。

（３）管理方針

飼養目的の観光・農福連携は継続するが、付加価値向上のための肉資源強化を方針とする。そのためには、専門的人員の配置と肉質向上のための飼料設計、飼養管理体制の構築を図る。

経費増が考えられるが、売却価格の見直しと、政策的価値づけのもと、頭数維持と出荷体制維持を行う。

個別具体の方針は次のとおり。

ア）施設

・ 冬期の繁殖♀用の運動スペースを確保し、運動不足からくる難産を防止する。

・ 当面は従来どおりの施設利用となるが、将来的にはＫ基地での牛飼養を減らす方向性を考え、ＫＫ畜舎やＫＤ２畜舎で飼養し、そのままそこから放牧を行う計画とする。

・ 将来的には、放牧地もＫ基地周りから展望台周りにかけてと哺育センター横の法面で１０ｈａほどを確保したい。

イ）人員

・ 専門員の配置を検討する。

・ 当牧場においてめん羊飼育を担当できる若手後継者を育成する。

ウ）出荷

・ 憩の家かや沼の動向にもよるが、原則的に町内優先の出荷とする。

・ 売却価格はと畜料や輸送費を加えた価格、市場相場に見直しする。

○年次計画表

※サフォークの離乳産仔率を現状の０．６７、フライスランドの離乳産仔数を期待値の１．５０で算出。

		０歳群	１歳群	Ａ群	Ｂ群	Ｃ群	Ｄ群	Ｆ群
Ｈ30	繁殖♀(父)頭数	16(Ａ5Ｂ2Ｃ2他7)	21(Ａ6Ｂ5他10)ＦＬ購入1	Ａ10	Ｂ7ＳＦ購入1	他14老齢10	他15老齢9	
	翌年度仕向け	１歳群へ	Ａ・Ｂ・Ｃ群へ	淘汰1	淘汰1	淘汰11	淘汰10	
	付ける繁殖♂	種付けしない	Ｆ	Ｂ	Ｃ	Ｄ	Ａ	
	H31産仔 頭数と仕向け		♂1、繁殖へ ♀9、０歳群へ ♂♀21、肥育へ	♀3、０歳群へ ♂♀4、肥育へ	♂1、繁殖へ ♀3、０歳群へ ♂♀2、肥育へ	♂1、繁殖へ ♀3、０歳群へ ♂♀11、肥育へ	♂1、繁殖へ ♀3、０歳群へ ♂♀11、肥育へ	
Ｒ1	繁殖♀(父)頭数	21（Ａ3Ｂ3Ｃ3Ｄ3Ｆ9）	16(Ａ5Ｂ2Ｃ2他7)ＦＬ購入1	Ａ15	Ｂ11他5	他16	他16	
	翌年度仕向け	１歳群・Ｆ群へ	Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ群へ	淘汰1	淘汰1	淘汰1	淘汰1	
	付ける繁殖♂	種付けしない	Ｆ	Ｂ	Ｃ	Ｄ	Ａ	
	H32産仔 頭数と仕向け		♀9、０歳群へ ♂♀15、肥育へ	♀3、０歳群へ ♂♀7、肥育へ	♂1、繁殖へ ♀3、０歳群へ ♂♀8、肥育へ	♂1、繁殖へ ♀3、０歳群へ ♂♀8、肥育へ	♀3、０歳群へ ♂♀8、肥育へ	
Ｒ2	繁殖♀(父)頭数	21（Ａ3Ｂ3Ｃ3Ｄ3Ｆ9）	12（Ａ3Ｂ3Ｃ3Ｄ3）	Ａ19	Ｂ12他5	Ｃ2他18	他19	Ｆ9
	翌年度仕向け	１歳群・Ｆ群へ	Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ群へ	淘汰4	淘汰2	淘汰5	淘汰4	淘汰1
	付ける繁殖♂	種付けしない	Ｆ	Ｂ	Ｃ	Ｄ	Ａ	余り
	H33産仔 頭数と仕向け		♀3、０歳群へ ♂♀15、肥育へ	♀3、０歳群へ ♂♀9、肥育へ	♀3、０歳群へ ♂♀9、肥育へ	♀3、０歳群へ ♂♀9、肥育へ	♀3、０歳群へ ♂♀9、肥育へ	♂♀13、肥育へ
① Ｒ3～5	繁殖♀(父)頭数	15（Ａ3Ｂ3Ｃ3Ｄ3Ｆ3）	12（Ａ3Ｂ3Ｃ3Ｄ3）	Ａ18	Ｂ＋他18	Ｃ＋他18	Ｄ＋他18	Ｆ18
	翌年度仕向け	１歳群・Ｆ群へ	Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ群へ	淘汰3	淘汰3	淘汰3	淘汰3	淘汰3
	付ける繁殖♂	種付けしない	Ｆ	Ｃ	Ｄ	Ａ	Ｂ	余り
	翌年産仔 頭数と仕向け		♀3、０歳群へ ♂♀15、肥育へ	♀3、０歳群へ ♂♀9、肥育へ	♀3、０歳群へ ♂♀9、肥育へ	♀3、０歳群へ ♂♀9、肥育へ	♀3、０歳群へ ♂♀9、肥育へ	♂♀27、肥育へ
② Ｒ6～8	繁殖♀(父)頭数	15（Ａ3Ｂ3Ｃ3Ｄ3Ｆ3）	12（Ａ3Ｂ3Ｃ3Ｄ3）	Ａ18	Ｂ＋他18	Ｃ＋他18	Ｄ＋他18	Ｆ18
	翌年度仕向け	１歳群・Ｆ群へ	Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ群へ	淘汰3	淘汰3	淘汰3	淘汰3	淘汰3
	付ける繁殖♂	種付けしない	Ｆ	Ｄ	Ａ	Ｂ	Ｃ	余り
	翌年産仔 頭数と仕向け		♀3、０歳群へ ♂♀15、肥育へ	♀3、０歳群へ ♂♀9、肥育へ	♀3、０歳群へ ♂♀9、肥育へ	♀3、０歳群へ ♂♀9、肥育へ	♀3、０歳群へ ♂♀9、肥育へ	♂♀27、肥育へ
③ Ｒ9～ 111	繁殖♀(父)頭数	15（Ａ3Ｂ3Ｃ3Ｄ3Ｆ3）	12（Ａ3Ｂ3Ｃ3Ｄ3）	Ａ18	Ｂ18	Ｃ＋他18	Ｄ＋他18	Ｆ18
	翌年度仕向け	１歳群・Ｆ群へ	Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ群へ	淘汰3	淘汰3	淘汰3	淘汰3	淘汰3
	付ける繁殖♂	種付けしない	Ｆ	Ｂ	Ｃ	Ｄ	Ａ	余り
	翌年産仔 頭数と仕向け		♀3、０歳群へ ♂♀15、肥育へ	♀3、０歳群へ ♂♀9、肥育へ	♀3、０歳群へ ♂♀9、肥育へ	♀3、０歳群へ ♂♀9、肥育へ	♀3、０歳群へ ♂♀9、肥育へ	♂♀27、肥育へ
以下、①～③を繰り返す。Ａ～Ｄ群に付ける繁殖♂は３年ごとに入れ替え、自分の親は種に使わないので、３年×３クール＝９年で１周する。								

3. 施設台帳
※多和団地

建物名	呼称	建築年	棟・基	面積（㎡）	構造	取得価格	事業名	摘要
畜舎	K-1	S45	1	593.06	鉄骨・ブロック	55,601,000	国営大規模草地	
畜舎	K-2	S46	1	593.06	鉄骨・ブロック			
畜舎	K-3	S47	1	593.06	鉄骨・ブロック			
畜舎	K-2	H20	1	980.14	鉄骨・ブロック		単独	K-2増改築
牧区避難舎		S46	3	208	鉄骨・ブロック	8,750,000	国営大規模草地	
飼料貯蔵施設		S44	1	706.64	鉄骨・RC	49,235,000	国営大規模草地	ﾊﾞﾝｶﾞｰｻｲﾛ
飼料貯蔵施設		S45	1	706.64	鉄骨・RC			ﾊﾞﾝｶﾞｰｻｲﾛ
飼料貯蔵施設		S46	1	706.64	鉄骨・RC			ﾊﾞﾝｶﾞｰｻｲﾛ
看視舎		S46	1	87.48	木造・平屋	3,407,000	国営大規模草地	住宅
看視舎		S63	1	78	木造・平屋	10,400,000	道営公共育成牧場	展望台横
牧区看視舎		S63	1	10	木造・平屋	230,000	道営公共育成牧場	
牧区看視舎		H4	1	10.12	鉄骨造	382,000		
牧区看視舎		H5	1	10.12	鉄骨造	382,000		
牧区看視舎		H8	1	10.12	鉄骨造	382,000		
牧区看視舎		H9	1	10.12	鉄骨造	382,000		
牧区看視舎		H10	1	10.12	鉄骨造	372,000		
牧区看視舎		H11	3	10.12	鉄骨造	1,100,000		
農具庫		S45	1	324	木造・平屋		単独	
飼料庫	羊舎		1	192	DEﾊｳｽ		単独	
飼料庫	KD-2	S50	1	348	DEﾊｳｽ		単独	
畜舎	KK	H1	1	348	DEﾊｳｽ	2,781,000	単独	
畜舎	KD-1	H5	1	348	Kﾊｳｽ	3,000,000	単独	
畜舎	S-4	H9	1	252.72	DEﾊｳｽ	3,699,000	単独	S4
尿だめ		S54	1	900	RC地下式	20,618,000	道営公共育成牧場	
基地衛生舎	K患畜舎	S57	1	135	鉄骨造	11,890,000	道営公共育成牧場	
牧区衛生舎		S58	8	19.44	鉄骨造	6,550,000	道営公共育成牧場	
堆肥盤		S57	1	1,709	ｺﾝｸﾘｰﾄ	10,000,000	道営公共育成牧場	
ヘリポート		S58	5	1,400	簡易舗装	7,050,000	道営公共育成牧場	5箇所
展望台		S62	1	96	鉄骨造	12,210,000	単独	
便所		S62	1	38	木造・平屋	10,700,000	単独	
牛衛舎		H9	1	20.16	鉄骨造	3,142,606	道営公共牧場整備	
飼料貯蔵施設		H9	1	4,290	鉄骨造	97,988,000	道営公共牧場整備	ﾊﾞﾝｶﾞｰｻｲﾛ
畜舎	S-1	H10	1	910	鉄骨造	72,865,800	道営公共牧場整備	S1
畜舎	S-2	H11	1	910	鉄骨造	66,277,245	道営公共牧場整備	S2
堆肥舎	第1堆肥舎	H10	1	890	鉄骨造	60,764,155	道営公共牧場整備	
尿だめ		H10	2	2,110	RC半地下式	40,321,068	道営公共牧場整備	
乾草庫	SD-1	H10	1		DEﾊｳｽ		単独	
畜舎	S-3	H12	1	910	鉄骨造	70,149,700	道営公共牧場整備	S3
尿だめ曝気槽		H12	1	40	FRP	20,444,473	道営公共牧場整備	
患畜2牛舎	S患畜2	H12	1	192	DEﾊｳｽ	6,825,000	道営公共牧場整備	
管理事務所		H13	1	447.12	木造・2階建	109,362,763	道営公共牧場整備	
衛生舎	S患畜	H13	1	388.50	鉄骨造	64,927,426	道営公共牧場整備	
オートバイ庫		H13	1	64	木造・平屋	1,810,000	単独	
看視舎		H13	1	9	ﾛｸﾞﾊｳｽ	6,407,100	道営公共牧場整備	
看視舎		H13	1	10	ｽｰﾊﾟｰﾊｳｽ		単独	
堆肥舎	第2堆肥舎	H15	1	1,102.60	鉄骨造	59,464,000	道営公共牧場整備	
格納庫		H15	1	235.26	鉄骨造	32,590,000	道営公共牧場整備	
畜舎	S-5-1,2,3	H15	3	530.46×3	鉄骨造	85,315,650	単独	S5-1,2,3
畜舎	S-6	H17	1	696.24	鉄骨造	44,016,000	単独	S6
畜舎	S-7	H18	1	697.24	鉄骨造	43,837,500	単独	S7
堆肥舎	第3堆肥舎	H18	1	750	鉄骨造	29,085,000	単独	
患畜2牛舎	S患畜2	H18	1	58.32	DEﾊｳｽ	6,500,000	単独	（増築）
倉庫	S患畜3	H18	1	116.64	木造・平屋	2,800,000	単独	
哺育ロボット牛舎	ﾛﾎﾞｯﾄ舎	H20	1	665.80	木造・平屋	169,899,450	道営草地整備	
カーフハッチ牛舎1	ハッチ舎1	H20	1	332.10	木造・平屋			
カーフハッチ牛舎2	ハッチ舎2	H20	1	332.10	木造・平屋			

堆肥舎	第4堆肥舎	H21	1	954.75	鉄骨造	43,249,500	道営草地整備	
畜舎	S-8	H22	1	1,845.12	木造一部鉄骨	135,471,000	道営草地整備	

※上オソベツ団地

建物名	呼称	建築年	棟・基	面積（㎡）	構造	取得価格		摘要
事務所		S60	1	102.06	木造・2階建	11,898,000	国営草地開発	
牧区看視舎		S60	1	12.15	木造・平屋		国営草地開発	
避難舎		S60	1	171	鉄骨造	13,590,000	国営草地開発	
飼料貯蔵施設		S59	1	194.40	鉄骨造	13,860,000	国営草地開発	
飼料貯蔵施設		S61	1	300	鉄骨造	15,000,000	国営草地開発	
飼料貯蔵施設		S62	1	58.50	鉄骨造	8,930,000	国営草地開発	
飼料貯蔵施設		S63	1	300	鉄骨造	15,470,000	国営草地開発	
農具庫		S60	1	270.35	鉄骨造	23,230,000	国営草地開発	
油庫		S63	1	12.15	鉄骨造	1,550,000	国営草地開発	

※水道課所管

建物名	呼称	建築年	棟・基	面積（㎡）	構造	取得価格		摘要
コンポスト堆肥舎		H10	3	925	鉄骨造	250,950,000	下水道	
機械格納庫	洗車庫	H10	1	136	鉄骨造	32,634,000	下水道	

４．機械・器具台帳

区分			メーカー・規格	車番	年式	取得価格	経過年数
場内連絡用	1	軽トラック	ダイハツ	65-93	H20	580,000	10
	2	軽トラック	ﾀﾞｲﾊﾂﾊｲｾﾞｯﾄﾊﾞﾝ	98-12	H21	420,000	9
	3	軽トラック	ﾀﾞｲﾊﾂﾊｲｾﾞｯﾄ	89-31	H11	寄付	19
	4	軽トラック	スズキｷｬﾘｰ	29-70	H10	寄付	20
	5	軽トラック	ﾀﾞｲﾊﾂﾊｲｾﾞｯﾄ	46-43	H30	1,207,570	1
	6	軽トラック	ﾀﾞｲﾊﾂﾊｲｾﾞｯﾄ	70-62	R1	1,294,470	
	7	軽トラック	ﾀﾞｲﾊﾂﾊｲｾﾞｯﾄ	70-63	R1	1,289,070	
	1	ピックアップ	ﾄﾖﾀﾊｲﾗｯｸｽ	16-02	H6	1,850,000	24
	2	ピックアップ	ﾄﾖﾀﾊｲﾗｯｸｽ	61-11	H1	1,500,000	29
連絡車	1	乗用	イスズビックホーン	49-86	H8	町管理課より	22
	2	乗用	ミツビシデリカ	20-50	H10	寄付	20
	3	乗用	スバルフォレスター	68-07	H30	2,635,500	1
	4	乗用	ニッサンｳｲﾝｸﾞﾛｰﾄﾞ	98-59	H10	町管理課より	20
	5	乗用	AD バン	54-36	H9	町管理課より	21
	6	ワゴン	トヨタ	67-74	H14	町教委より	16
	7	ワゴン	トヨタ	5-30	H5	町教委より	25
	8	通勤バス	ミツビシローザ		R1	10,554,130	
牧区用	1	オートバイ	ホンダ　エイプ	5-45	H21	281,790	
	2	オートバイ	ホンダ　エイプ	5-46	H21	281,790	
	3	オートバイ	ホンダ　エイプ	5-47	H20	170,100	
	4	オートバイ	ホンダ　エイプ	5-50	H20	179,130	
	5	オートバイ	ホンダ　エイプ	5-51	H23	282,420	
	6	オートバイ	ホンダ　エイプ	5-52	H23	282,420	
	7	オートバイ	ホンダ　エイプ	5-53	H24	282,420	
	8	オートバイ	ホンダ　エイプ	5-66	H24	282,420	
	9	オートバイ	ホンダ　エイプ	5-56	H26	290,870	
	10	オートバイ	ホンダ　エイプ	5-57	H26	290,870	
	11	オートバイ	ﾎﾝﾀﾞｴｲﾌﾟ 50 ﾀｲﾌﾟ D	5-58	H27	314,870	
	12	オートバイ	ﾎﾝﾀﾞｴｲﾌﾟ 50 ﾀｲﾌﾟ D	5-60	H27	314,870	
	13	オートバイ	ﾎﾝﾀﾞｴｲﾌﾟ 50 ﾀｲﾌﾟ D	5-61	H28	339,270	
	14	オートバイ	ﾎﾝﾀﾞｴｲﾌﾟ 50 ﾀｲﾌﾟ D	5-62	H28	339,270	
	15	オートバイ	ﾎﾝﾀﾞｴｲﾌﾟ 50 ﾀｲﾌﾟ D	5-63	H29	339,350	
	16	オートバイ	ﾎﾝﾀﾞｴｲﾌﾟ 50 ﾀｲﾌﾟ D	5-65	H29	339,350	
	17	オートバイ	ﾎﾝﾀﾞｸﾛｽｶﾌﾞ 50	1-20	R1	322,070	
	18	オートバイ	ﾎﾝﾀﾞｸﾛｽｶﾌﾞ 50	1-21	R1	322,070	
	1	家畜車4t(中古)	いすゞ	85-99	H16	5,000,000	14

作業用車両	2	家畜車4t(中古)	いすゞﾌｫﾜｰﾄﾞ	7-67	H9	3,122,916	21
		箱トラック	トヨタダイナ	71-34	H5	町教委より	25
	1	ダンプ4t	いすゞ	9-02	H8.8	8,209,100	22
	2	ダンプ4t	日野	1-75	H11.7	9,712,500	19
	3	チビダンプ4t(中古)	いすゞﾌｫﾜｰﾄﾞ	35-99	H19	1,914,320	11
	4	ダンプ10t(中古)	ニッサン	20-99	H14	5,355,000	16
	5	ダンプ10t	いすゞ自動車	11-65	H3	町建設課より	27
		セルフ(中古)	ニッサン	20-31	H11	6,971,610	19
	1	タイヤショベル(中古)	コマツ WA100-5	7-52	H16	2,645,790	14
	2	タイヤショベル(中古)	コマツ WA100-6	21-79	H24	6,172,180	7
	3	タイヤショベル(中古)	コマツ WA150-5	19-54	H23	5,354,000	7
	4	タイヤショベル(中古)	コマツ WA40-3E	ま 43	H8	194,400	22
	5	タイヤショベル	コマツ WA40-6	3-90	H24	4,021,500	6
	6	タイヤショベル	コマツ WA300	18-76	S63	町建設課より	30
	7	タイヤショベル	コベルコ		H15	町農林課より	15
	8	タイヤショベル	カワサキ	25-61	H6	町住民課より	24
		ブルトーザ(中古)	コマツ D31P-20		H13	3,675,000	17
		バックホー	コマツ PC120				
	1	トラクター	ジョンディア 2040	65-85	S55	6,860,000	38
	2	トラクター	フォード 6610	87-71	S60	5,450,000	33
	3	トラクター	ジョンディア 3140	87-80	S60	8,650,000	33
	4	トラクター	クボタ M9570	87-69	S60	6,000,000	33
	5	トラクター	フォード 8210	20-37	H4	6,890,700	26
	6	トラクター	クボタ MD117	5-15	H9	8,730,750	21
	7	トラクター	ﾆｭｰﾎﾗﾝﾄﾞ TM135	4-45	H13	6,268,500	17
	8	トラクター	ﾆｭｰﾎﾗﾝﾄﾞ TM135	4-46	H13	7,308,000	17
	9	トラクター	クボタ M125-HPC	7-56	H16	4,546,500	14
	10	トラクター	ﾆｭｰﾎﾗﾝﾄﾞ TM155	8-65	H17	7,224,000	13
	11	トラクター(中古)	ﾆｭｰﾎﾗﾝﾄﾞ TM130	9-41	H18	3,675,000	12
	12	トラクター	クボタ M135A	3-51	H24	10,815,000	6
	13	トラクター(中古)	クボタ M125-HPC	5-36	H18	778,400	12
	14	トラクター	ﾆｭｰﾎﾗﾝﾄﾞ T7・245	1-20	R1	18,565,200	0
		ロールベーラー(中古)	ビコン VB2160-OCTN		H18	1,401,550	12
		ロールベーラー(中古)	ビコン VB2160-OCTN		H18	1,401,550	12
		ロールベーラー	タカキタ VC1620		H30	5,886,000	1
		マニュアスプレッタ	スターTMS7500DX		H5	2,450,000	25
		マニュアスプレッタ	スターTHM8010M		H11	2,782,500	19
		マニュアスプレッタ	タカキタ RD8000		H12	2,289,000	18
		ジャイロヘイメーカー	スターMGH6210		H7	999,100	23
		テッター	レリーLOTUS1020		H15	1,370,800	15

		テッター	レリーLOTUS1020		H20	1,350,000	10
		レーキ	レリー		H14	1,470,000	16
		レーキ(中古)	ﾀｶｷﾀ TR7202		H16	130,000	
		デスクモアー(中古)	ビコン				
		デスクモアー(中古)	ターラップ 2628M		H26	794,880	4
		フロントデスクモア	ポッテンガー				
		デスクモアﾌﾛﾝﾄ	ﾋﾞｺﾝ EX332F		R1	5,497,200	
		デスクモアﾘｱ	ﾊﾞﾀﾌﾗｲﾋﾞｺﾝ EX390		R1		
		ラップマシーン	ﾀｶｷﾀ WM1530AX		H23	2,200,000	7
		ラップマシーン	ﾀｶｷﾀ WM1600R		H29	1,663,200	1
		ﾌﾞﾛｰﾄﾞｷｬｽﾀｰ(中古)	ビコン RS1205		H11	176,400	19
		ﾌﾞﾛｰﾄﾞｷｬｽﾀｰ(中古)	ビコン RS1205		H11	189,000	19
		ﾌﾞﾛｰﾄﾞｷｬｽﾀｰ(中古)	スターTBC23000		H12	199,500	18
		ブロードキャスター	ビコン RS1205		H16	472,500	14
		ﾘﾊﾞｰｼﾌﾞﾙﾌﾟﾗｳ(中古)	ｽｶﾞﾉ VRY203FC		H17	189,000	13
		ロータリーハロー(中古)	コバシ KC243		H12	159,600	18
		デスクハロー(中古)	ニューホランド		H16	199,500	14
		ケンブリッジローラ	スターTKR270A		S57	648,000	36
		シードマチック	エイチゾン 3016		H8	2,163,000	22
		スプレーヤ	東洋機械 TMS1300E		H10	105,000	20
		リノベータ(中古)	福地 FRB-3000		H15	100,000	15
		エアーウエイ	コーンズ 120Q		H14	336,630	16
		バキューム	スターTVC6530		H10	2,814,000	20
		ﾐｷｻｰﾌｨｰﾀﾞｰ(中古)	ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙ UNIBLEND425			5,680,400	20
		ハーベスター	JF　FCT-1100MKⅡ		H11	3,780,000	19
		スノーブロアー(中古)	タカキタ SB2971F		H26	740,000	4
		スノーブレード(中古)	コマツ		H20	126,000	10
		スノーモービル	ヤマハ		H4	水道課より	27
		コンポスト攪拌機	トップターン 3500		H11	48,300,000	20
		ミルクシャトル	ｱｰﾊﾞﾝ MS-200		H29	1,620,000	